

メッセージを送ります



全日本遊技事業協同組合連合会
理事長 阿部 恭久

新年あけましておめでとうございます。

さて、昨年は、業界における従来からの遊技環境の問題解決に向け、20年に一度と言われるほどの激動の年となりました。その対応策として、全日遊連では昨年6月に「新基準に該当しない遊技機の取扱いについて」の基本方針を決議しており、全国の組合員ホールにおかれては、現在も新基準に該当しない遊技機の段階的な撤去に粛々と取り組んでいただいているところであります。

また、全日遊連の自主規制を受け、業界6団体でも「高射幸性遊技機の取扱いについての合意書」を締結いたしました。市場にある高射幸性遊技機の優先的撤去についての問題意識を業界全体で共有することにより、更に取組みの強化を目指していますので、この点につきましてもご協力をお願いいたします。

本年12月1日には、私たちホールが社会に対して明言した最初の設置比率の期限を迎えます。仮にこの約束を守ることができなかった場合は、私たちホール営業者の信頼は失墜し、更に厳しい状況も余儀なくされることと思います。どうか全てのホールが目標値に達成していただけていることを期待いたしております。

次に、「検定機と性能が異なる可能性のあるぱちんこ遊技機の撤去について」であります。本件については、様々な噂や憶測が先行し、全国の組合員ホールに対して多大なるご心配をおかけしたと認識しております。

全日遊連といたしましても、メーカー団体との交渉を粘り強く続けていく所存であります。メーカーに対しては、円滑な遊技機の回収と併せて、安心してホール店内に設置できる遊技機の開発を要請していくところでありますが、私たちホール営業者も、より手軽に遊んでいただける環境を一日も早く提供できるよう、更に努力をしなければならないと思います。本件を、業界の軌道を修正する転機と捉え、遊技環境をより良いものにし、お客様にも喜んでいただけるようにして参りたいと考えております。

業界の軌道修正の転機ととらえ



一般社団法人 遊技産業健全化推進機構
代表理事 五木田 彬

新年は遊技産業健全化推進機構が発足して10周年を迎える節目の年となります。

機構は業界から不正を追放する「第三者機関」として平成18年にスタートし、翌年から検査活動を開始しました。これまで貫いてきた方針は「不正は許さない」ということで、決して妥協せず、しかし公平に検査等を行ってまいりました。この基本姿勢はこれからも堅持していく所存です。

機構発足以来の検査日数は延べ1359日。検査に伺ったホール数は2万店余となり、全国のホールを約2巡した計算です。検査台数は約15万台に上ります。遊技機の不正改造や計数機の計数異常が相変わらず見つかっており、行政当局に通報するケースもかなりありました。明確な不正とは断言出来ないものの、無承認変更とみられる部品の交換などの事案も見受けられ、計数機の「計測異常」が昨年度は減少しておりましたが、今年度は増加傾向に転じました。業界全体のイメージの失墜にも繋がりがねないことですので、是非、改善に取り組んで頂きたいと思っております。

今年度の新たな事業としては、警察庁の要請を受けて始めた「遊技機性能調査」があります。調査の結果、全国のホールに設置されている遊技機の一般入賞口にほとんど玉が入らないことが確認されました。ここに来て改善の動きも出ているということで、推移を見守りたいと思っています。

このように機構の検査、調査は、ホールに遊技をされる皆さんに公平な環境を確保することを目指しております。単に不正を暴くというだけではなく、不正を未然に防止する役割をも果たしていると思っております。そしてこの約10年間に機構の検査活動は様々な形で成果を挙げているものと自負しております。

遊技業界は現在、解決しなければならない様々な問題に直面していますが、いかなる局面でも定められた法令を遵守することが求められます。是非真剣に取り組んで頂きたいと思っております。

法令遵守、お客様に公平な環境を



日本電動式遊技機工業協同組合
理事長 佐野 慎一

日本遊技関連事業協会加盟の皆様 謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、メーカー独自の問題として、自主規制対策を実施したにもかかわらず、ファンの皆様から一定のご支持をいただくことができました。また、パチスロ業界全体の発展のために、東京・秋葉原で8月2日実施した「8月4日はパチスロの日」では、これまでで最高だった昨年とほぼ横ばいの約1万1,000名の来場者を迎え、盛大に実施させていただきました。これらにつきましては、日遊協の皆様のお蔭と、日電協を代表して深く感謝申し上げます。これらにつきましては、日遊協の皆様のお蔭と、日電協を代表して深く感謝申し上げます。

さて、本年の日本経済について展望しますと、中国の先行き不透明の動向や、昨年11月に起きた、フランス・パリでの同時多発テロをはじめとした国際情勢を踏まえると、日本経済の先行きは不透明感を増しているとのこととあります。

こうした不透明な経済環境の中で、遊技業界については、遊技人口の減少に歯止めがかからず非常に厳しい情勢となっております。特に若者のパチンコ・パチスロ離れが深刻な問題となっており、如何にして遊技人口の減少を食い止め、集客数の拡大を図って行くかが、我々に課せられた共通の課題だと思っております。

このような状況の中で、パチスロ業界については、昨年、高射幸性遊技機についての取り扱いについて、メーカー独自の問題として自主規制対策を実施し、いろいろな措置を講じてまいりました。

これらの措置によって、今後は、指示機能による射幸性と消費金額が抑制されることになり、難解であったゲーム性がシンプルになり、楽しめるチャンスが広がるものと思っております。したがって、初心者にも易しく、楽しく遊べる遊技機が多数出現するものと期待しております。

これがひいては一般ユーザーのファン拡大につながり、遊技人口減少に少しでも歯止めをかけるものと信じております。

初心者にも易しい遊技機づくり



日本遊技機工業組合
理事長 金沢 全求

新年明けましておめでとうございます。

さて、昨年は国内景気が足踏み状態で、個人消費の低迷から抜け出せないまま推移しました。また、国際貢献、米軍基地問題、近隣諸国との関係等、国の安全保障の在り方が国民的議論になる中、安全保障関連法案が成立しました。一方、国際的には連続テロが頻発するなど、国内外の情勢は不安定な状況でありました。

遊技業界においては、ファン離れが進み、依然としてヘビーユーザーが支えている現状があり、大衆娯楽からかけ離れた憂慮すべき実態となっています。多くのファンを減少させた事を重く受け止め、身近で手軽な大衆娯楽として幅広い層に受け入れられるよう、業界として安心して遊べる遊技環境を整備し、社会的な役割を重視し国民の理解を得ることが重要であると考えています。

また、遊技へののめり込みの問題につきまして、業界各団体が対策を進めておりますが、製造業者として、その一因となっている遊技機の射幸性を抑制するため、大当たり確率の下限を1/320に引き上げるなど、遊技者の消費金額を抑え、この基準に該当しない遊技機の販売はしない旨の取り決めをし、併せて業界あげて市場における当該遊技機の設置を減らしていく旨の合意がされました。

こうした中、遊技くぎについて、出荷時のくぎの状態について指摘がされました。これを受け調査した結果、検定と異なる可能性があることが判明し、今後、適正な状態での出荷をするとともに、市場において遊技くぎの変更に該当する遊技機を他団体と協力し速やかな回収をすることとしました。

多くのファンの皆様には安心して遊べる遊技環境の整備を推進している最中であって、誠に遺憾なことであり、深く反省をするとともに、遊技機の適正化を推し進め、高い射幸性を示す遊技機を一掃し、信頼を回復し、健全化に向けて対処して参りますので、ファンの皆様、業界関係各位のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

信頼回復へ遊技機の適正化推進



回胴式遊技機商業協同組合
理事長 伊豆 正則

いま、我々の業界は、いままでに経験したことのない変革の時代を迎えております。そのためには、いま決断・実行することなくして業界の将来はないといっても過言ではないと思います。我々が勇氣を持って決断することにより問題を解決し、業界が大きく変わり、進化していかなければならない状況におかれています。

何もせずして歴史は保たれません。何もせずして明るい将来はありません。私たちは、未来の業界に向かって終わりのない旅を続けていかなければなりません。

我々の繁栄は与えられるものではなく、自分らの手で作り上げていくものだと思います。

私たちの生活基盤である産業を良くするのは私たちにしかできませんし、また産業を悪くするのも私たちであり、全ての責任は我々にあるということ肝に銘じ、パチンコ・パチスロ産業は1つしかないということを、いま一度認識する時期に来ているのではないのでしょうか。

私は、ここ数年、一年のキーワードを一字に託して年頭所感とさせていただいております。平成28年の年頭に当たっては、「変」の一字で表現したいと思います。

いまこそ業界は、将来へ向けて大きく変わり、新たな時代の第一歩を踏み出すときが来ています。我々は「変」わらなければなりません。また、業界全体を「変」えなくてはなりません。業界団体が個別に変化していくような時代は終わりました。今年こそ、業界全体で「変」わる年にしていかなければならないと思います。

遊技機・遊技場・遊技環境が著しく変化する中、日本にしかない真の大衆娯楽を構築する大きな変革を成し遂げなければならぬ大変、な年になると考えています。

最後に、皆様の大きな協力と深いご理解を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

今こそ業界全体を「変」えるとき



全国遊技機商業協同組合連合会
会長 中村 昌勇

皆様には輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、去年は、ラグビー日本代表による歴史的勝利や相次ぐ日本人のノーベル賞受賞に日本列島が沸いた事も記憶に新しいところですが。一方で、フランスパリでの同時多発テロなど、大きな悲しみに包まれる出来事もございました。

このような社会情勢下におきまして、我々遊技業界では様々な問題が山積しております。特に、(一社)遊技産業健全化推進機構による遊技機性能調査や、ホールに設置されている高射幸性遊技機の優先的撤去など、業界全体が関わる非常に困難な課題に取り組まなければならない1年でした。同時に、若者のパチンコ離れの歯止めや新規ファンの開拓など、遊技産業の活性化を図る事も重要な課題であり、これからも一丸となって取り組まなければなりません。

私ども、全商協といたしましては、パチンコ・パチスロ産業21世紀会で採択されました「安心娯楽宣言」を認知していただき、業界人として種々の活動に取り組んでいただくため「安心娯楽宣言啓蒙バッジ」を制作し、全ての組合員が着用することで、この活動を理解し、広めていく活動を展開しました。

さらにはパチンコ・パチスロ依存症対策の一環として、リカバリーサポート・ネットワークの電話相談事業を支援すべく、昨年8月より全商協の事務局内にリカバリーサポート・ネットワーク支援室を立ち上げ、依存症以外の問い合わせに対応するための電話相談窓口を開設しました。今後も、この支援室の活動を通じて依存問題の一翼を担えるよう、継続して取り組み、遊技業界に貢献する所存でございます。

また、全商協の主幹事業である中古機流通事業におきましても、より一層の健全化に向けた施策を進めると共に、全商協の組織力を活かし、一丸となって取り組んでいく所存でございますので、ご指導・ご鞭達のほど、よろしくお願い申し上げます。

「安心娯楽」へ取り組みを継続

遊技場自動補給装置工業組合
理事長 梁川 誠市



新年明けましておめでとうございます。皆様方には益々ご健勝で輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年度は、雇用や所得環境に改善傾向が見られましたが、中国経済をはじめとする海外景気の下振れなどにより、景気は緩やかな回復を見せるに止まりました。遅れている大震災からの復興加速と、デフレ脱却を明確なものにするためにも、政府が打ち出す戦略に今後も注目したいところであります。

同様に我々業界内も長期化する不況から依然として抜け出せないなか、本年は遊技機に対する環境が大きく変化し、大衆娯楽としての原点に立ち戻って考えるべき歴史的転換期になると予想されます。

近年様々なレジャー産業が溢れている状況下で、パチンコ・パチスロは今もなお約1,000万人以上ものファンの皆様方に支えられております。

今後も身近で手軽な大衆娯楽として存在していくためには一般社会に認知され、国民全体に支持される産業でなければなりません。

もう一度業界の健全化、適正化に向けての社会的責任を再確認し、依存のめり込みを始めとする幾多の問題に対して真摯に対応していくべきであると考えます。

最大の難局ではありますが、時代の変化に対応できる産業として業界全体で実効性のある施策を展開し、活発な各種活動を継続していく以外に方法はありません。遊技機の在り方が変化していくなかで、ファンの多種多様なニーズにお応え出来る機種の開発に期待し、国民の皆様方に新しい魅力と憩いを与える産業として成長していくことを目標に他団体の皆様方とともに協議し、我々設備メーカーと致しましても真摯にご協力させて頂く所存です。

安心して遊技できる環境整備に補給組合員一同努力して参りますので、本年もより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

時代の変化へ実効性のある施策

一般社団法人 遊技場自動サービス機工業会
理事長 古宮 重雄



皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年9月のレジャー白書で、遊技業界の市場規模が前年比5,010億円減少の2兆5,040億円となるも、参加人口は前年比180万人増加の1,150万人と2年ぶりに1,000万人を超えるという明るい話題がありました。

しかし、現下の遊技業界の懸案事項は、昨年1月の行政の指摘でもあった、射幸性・のめり込み、不正改造・くぎ・賞品・広告宣伝・置引きなどであり、これらに対して結果を出すことが強く求められているものと感じています。

幣会では、のめり込みについて、現行の会員管理システムを活用した^①依存症、会員の会員カード利用停止による防止策をご提案させていただきました。

しかしながら、のめり込み以外の懸案解決の手法によっては、資金が周辺機器の投資に回ってこなくなることも考えられることから、周辺機器の製造・販売を生業とする私どもにとっても相当なインパクトのある年になるのではないかと案じております。

昨年、私ども自工会では、店頭の遊技料金改定により再プレイ出来なくなる貯玉を、再プレイで利用出来るよう^②乗り入れ機能、という仕組みをご提案させていただき、多少なりとも魅力のある周辺機器の提供に努めさせていただきました。

本年は、かなり厳しい状況になることが予想されますが、引き続き、価値のある自動省力化機器をご提供できるよう知恵を絞りたいと考えております。

最後に、皆様のますますのご健勝と更なるご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

知恵を絞り価値ある省力化機器

メッセージを送ります



一般社団法人 日本遊技産業経営者同友会
代表理事 東野 昌一

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、パチンコ・パチスロ業界が大きく変化する、その始まりの年でありました。

大手ホール法人の経営統合に端を発する業界再編の動きの活発化、賞品交換個数の全国的な見直し、新たな要件をクリアした遊技機の登場等、これらの動きは業界の10年先の未来を決定づける課題として、我々に新たなチャレンジを促しています。

ホール・メーカー数の減少、ファン人口の実質的な減少、売上・稼働の低下。数字は下降線を辿っていますが、我々の思考まで下降線を辿る必要はありません。危機こそチャンスであり、この諸々の課題をクリアした先に、明るい未来があることを信じて邁進していくことこそ、経営者が持つべき思考、取るべき行動ではないでしょうか。

パチンコ・パチスロが、日本国民のみならず、訪日する外国人観光客や、ひいては世界の誰もが手軽に安心して遊べるグローバルな遊技として、世界に誇れる日本の娯楽文化として、発展させ飛躍させるため、健全化の旗印のもと業界が一丸となって取り組んで行きましょう。

同友会は、責任あるホール団体の一員として、パチンコ・パチスロ産業がより良い産業として健全に発展していくための経営者の意識改革及び社員の育成に積極的に努めてまいります。また、新たな顧客の創造とこれからの業界の在り方についての政策提言に向けた研究を深化させていく所存であります。

困難を甘んじて受け止め、力強く克服し、そして前進していきましょう。

本年も皆様のより一層のご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げますとともに、皆様にとってこの一年が良い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

グローバルな遊技として発展へ



遊技場メダル自動補給装置工業会
理事長 大泉 政治

新年明けましておめでとうございます。

さて、昨年の日本経済は、アベノミクス政策等により円安、株高基調に推移して景気回復の兆しは見えたが、消費増税の反動が予想以上に長引き、景気回復のもたつきがなお続いており、男性会社員の小遣いが1979年の調査開始以降、過去2番目の低額という調査結果が報道されるなど多くの国民は景気回復を実感できるまでには至っていない。

このような経済情勢の中、遊技業界は保通協による回胴式遊技機の型式試験方法の変更に続き、行政当局からパチンコの遊技くぎ問題が指摘された。これらの課題を真摯に受け止め、関連団体は対応方策として新規に開発する遊技機の自主規制及び既に設置されている高射幸性遊技機の取扱い等に関して合意をしている。

遊技業界は、過去に幾度も多難な局面に遭遇したが、その都度、英知を結集して乗り切り今日に至っている。これらの課題への対応如何によっては遊技業界の浮沈に掛かることを肝に命じ、今回も打開方法の根幹は遊技業界として取り決めた内容を遊技機メーカー、ホール、周辺機器メーカー及び関連団体等が小異を捨てて大意につき、一枚岩となって対応して行くことに他ならないと思う。

遊技参加人口が1000万人以上の「国民の大衆娯楽」であるパチンコ産業をより発展させるため、遊技業界が一丸となってゲーム性に富み、バリエーションが豊富で、老若男女を問わない幅広い客のニーズに応える、安心して遊べる遊技機の開発や特に若者や女性が好んで入場できる快適な遊技空間を創生して集客力を高めて行くことが肝要であると思うところであります。

私ども周辺機器メーカーの関連団体としては、昨今のホールの人手不足解消対策の一翼を担うメダル自動補給装置導入の後押しをするため、より良い自動補給装置器具等の開発改善に努めてまいりたいと考えております。

困難な状況を一枚岩で突破を



一般社団法人 パチンコチェーンストア協会
代表理事 金本 朝樹

新年明けましておめでとうございます。

パチンコ業界は前半と後半でムードが大きく変わりました。今年前半も決して明るい状況であったわけではありませんが、7月に発表されたレジャー白書では遊技人口が180万人増え1,150万人となりました。パチンコ業者が実感するものとは違うとはいえ、悪いニュースではありませんでした。

9月30日には6団体による「高射幸性遊技機の取り扱いについての合意書」が出され、射幸性低下に向けた道筋が見えたように感じました。

その中で業界に大きなインパクトを与えたのは11月6日の警察庁からホールへの要請です。パチンコホールに検定機と性能が異なる可能性のあるパチンコ遊技機が出荷され、該当する台は速やかに撤去するように、という内容でした。11月17日の一般社団法人余暇環境整備推進協議会秋季セミナーの課長補佐の講話では、業界の「おとしどころ」を探すような姿勢にも苦言を呈されました。

パチンコ業界はこれを大きなチャンスと捉えなくてはなりません。

弊協会ではパチンコを遊技と定義し大衆娯楽であるべきだと考えております。また、多くの団体も同様にパチンコを大衆娯楽だと考えております。

しかしながら、近年のパチンコは大衆娯楽からかけ離れていきました。1995年に2900万人だった参加人口は2013年には1000万人を割り込みました。参加人口が減った対策として業界がしたことはお客様を増やすのではなく、高射幸性の機種を増やして一人当たりの利益を増やす手法でした。

我々パチンコ業界は、そういった流れに終止符を打って、経営のやり方を変えていくべきじゃないでしょうか。売上も下がります。利益も下がります。そのような中チャレンジできることは稼働を上げる事です。大衆が喜び、笑顔になる業界に戻っていくために、パチンコホール、メーカー、業界全体で力を併せていく、そのような1年にしたいと考えております。

いまこそ「大衆娯楽」への復帰を



一般社団法人 余暇環境整備推進協議会
代表理事 笠井 聡夫

明けましておめでとうございます。皆様には恙なく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中、幣協議会に賜りましたご指導、ご支援に対し厚く御礼を申し上げます。

パチンコ・パチスロを大衆娯楽として楽しんでいただくためには遊技そのものの面白さとともにその環境整備も重要な課題であります。昨年、過度なめり込み対策や高射幸性遊技機対策等について業界挙げて真摯に取り組み所期の成果を上げることができましたことはまことにご同慶にたえません。

今日、企業は顧客(ファン)の満足を得ることはもちろん、社会と共生していくことが求められています。遊技人口は長年減少傾向が続いてきましたが、いまなお1千万人を超えるファンを擁し、遊技業の健全化、適正化に向けた責任は重大と痛感する次第であります。

幣協議会はパチンコ・パチスロ遊技の環境の整備推進のため調査検討し、折々に提言をしてまいりました。本年も気持ちを新たにファンと広く国民各層の一層のご理解ご賛同が得られますよう、また、業界のさらなる発展のために精進してまいり所存であります。皆様には引き続き倍旧のご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

末尾となりましたが、皆様のますますのご健勝とご隆盛を衷心よりご祈念申し上げます。

健全化、適正化への責任は重大



新しい1年へ心からの

メッセージを送ります

一般社団法人 電子認証システム協議会
代表理事 広瀬 清



あけましておめでとうございます。
遊技機の基準が昨年末より改定され、遊技業界が気軽に遊べる大衆娯楽へと向けて、再出発すべく新しい年を迎えております。ここ10数年の間に遊技機の射幸性が高くなりすぎた影響により、遊技客の減少に歯止めがかからなくなってしまった現実を受け止め、今年は遊技業界をあげて、大衆娯楽化へ向けて取り組んでいかなければならない、重要な年になると思われま

す。現状の遊技業界を支えている熱心なお客様も大切ですが、一番大事なものは、すそ野の広がりであり、将来に向けての若いお客様を取り込んでゆくことだと思われま

す。そのためにも気軽に入店できるよう、初心者の方でも簡単に遊べる、初心者向けの遊技機のバリエーションが、もっと充実されているとよいのではないのでしょうか。

もちろん遊技機の問題だけでなく、環境整備も合わせて改善し、時間消費型の娯楽として、多くの若者が興味をもって、一人でも気楽に入れる環境をつくりだすことが、急務な課題だと思われま

す。遊技場が活気を取り戻し、その全体としての成長なくして、業界個々の発展はあり得ないわけですから、遵法精神に則り、将来に向けて業界が1つにまとまる大きな転換期を迎えていると思っております。

認証協は、遊技業界の健全化と売上の透明性を事業目的と謳って、13年目を迎えております。業界を取り巻く種々の問題等厳しい状況の中、少しずつではありますが、認証協のiクリアシステムをご利用いただく加盟店舗数を増やし続けております。又、新しい遊技機システムの市場導入に向けて、他団体と協力のもと、開発も着々と進めております。

今後とも、認証協加盟会社は結束して、新たな時代に向け邁進してまいりたいと考えておりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本年も変わらぬご支援、ご協力を受け賜りますようお願い申し上げます。

健全化と売上の透明化を目指し

一般社団法人 プリペイドシステム協会
理事長 小堀 豊



新年あけましておめでとうございます。皆様には、ますますご健勝で、輝かしい新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。また、昨年中に当協会に賜りました温かいご支援とご協力に対し、心から厚くお礼申し上げます。

当協会は、「インのクリア」を通してパチンコ業界に貢献すること及び会員各社の相互理解と切磋琢磨を目的として設立され、本年7月には設立12周年目を迎えます。

この間、品質管理の礎となる統一の「貸出インターフェース規約確認書」に基づく(一財)保安通信協会の試験に合格したCU(カードユニット、メダル等を含む)は600機種を超えるまでになりました。

当協会のCUは、ホールの皆様方が安心してお使い頂けるよう、また品質保持のため、平成20年8月以降は、従来の検査項目にセキュリティー項目を追加した試験を経て、平成24年度からは、従来の新規試験等に加え、変更試験も行い、提供されています。

また、平成18年からは「インのクリア」の更なる普及のため、パチスロ機等への進出・普及にも努めているほか、最近の低玉貸に対応したCUや計数機能を備えたCUの開発等、業界のニーズに応えたCUの提供にも努めています。その結果、当協会加盟各社のCUは、平成27年10月の段階でパチンコ遊技機の約88%260万台、回胴式遊技機の約66%109万台に使用されております。なお、新たに日工組と協力のもとECOパチ機に対応したユニットシステムの検討を進めています。

本年も業界団体の一員として、業界の各種活動に積極的に参加しつつ、お客様方と関係行政機関・諸団体等との意見交換を通じて、プリペイドシステムのあるべき方向を模索しながら、その実現に努めていく所存です。

年頭に当たり、皆様からのより一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いするとともに、皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

CUの開発、高い品質に自信